

2009年 FIG 総会の概要

総幹事 西修二郎

第 32 回 FIG 総会は、2009 年 5 月 3 日～8 日の期間、イスラエル エイラート (Eilat) の Dan Hotel で開催された。

当初、日本測量者連盟も総括幹事を派遣する予定であったが、出発直前、豚インフルエンザの警戒レベルがフェーズ 5 に引き上げられたことで派遣を中止した。

そこで今回は会議後に発表された資料により、第 32 回 FIG 総会の様子を見てみよう。

まず会議の開かれたエイラート(Eilat)であるが、エイラートは、イスラエル最南端のアカバ湾口のリゾート都市で人口は約 5 万人ほどである。イスラエルで唯一紅海に面した場所で、ヨルダンとエジプトに接した国境の町でもある。

第 32 回 FIG 総会には 60 カ国から 600 人を超える参加者があったようである。

全体日程は 5 月 3 日の前日会議を除いて以下のものであった。

	5 月 4 日	5 月 5 日	5 月 6 日	5 月 7 日	5 月 8 日
午前	登録 総会 Coffee Break 総会	登録 開会式 展示会開会式 Coffee Break 全体会議	全体会議 Coffee Break 技術講演会	全体会議 Coffee Break 技術講演会	会長懇談会 Coffee Break 総会
	昼食	昼食	昼食	昼食	閉会式
午後	総会 Coffee Break 委員会総会 歓迎レセプション	技術講演会 Coffee Break 技術講演会	技術講演会 Coffee Break 技術講演会 夕食会	技術講演会 Coffee Break 技術講演会 夕食会	

5 月 4 日 (月) の総会 (第一部) は、会場となった Dan Hotel の Big Blue Hall で行われている。

総会の式次第は以下のようである。



1. 開会

Stig Enemark 会長による開会宣言

2. 点呼

Matt Higgins 副会長による出席会員の点呼

3. 投票集計係任命

前回開催国のスウェーデンと今回開催国イスラエルの協会から 2 人任命

4. 議題の採択

5. 第 31 回総会議事録の承認

6. 新規加盟団体の承認

会員：ニジェール (Niger) の協会：現在の会員数 99

連携会員：ネパールの復帰を承認：現在の連携会員数 28

賛助会員：Magellan ,REDIN.com,ORBITS : 現在の賛助会員数 35

アカデミック会員：英国、エジプト、エチオピア、イスラエル、メキシコ、パレスチナの大学、研究所 : 現在のアカデミック会員数 79

7. FIG 会長報告

前回の総会以降の活動報告を会長が次のように行っている。

前回のストックフォルムでの第 31 回総会は 90 カ国以上の国から 950 名の参加があり、成功であった。

国連の HABITAT と協力して行われたスラム問題改善のセミナーも成果があった。

FIG 事務局の改革も行われ、FIG 事務局の管理能力も強化された。またストックフォルムでは Greenway (英国) 氏と CheeHai (マレーシア) 氏が副会長に選出された。

前任の Ken Allred 氏と Paul van der Molen 氏には、これまでの FIG に対する貢献に対して感謝する。今年の 2 月に開かれた FIG の理事会での大きな議論は FIG の財務状況である。世界的な経済危機の影響で年会費が負担になっていることを考慮して今回の議題にもあるように、年会費の実施時期をずらすという配慮も行った。同時に会員に対する義務として FIG 財政の透明性を高め、FIG の活動を知らせる努力を更に高めなければならない。

幸いなことに毎年会員は増えており、今年はニジェールから参加の申し込みがあった。しかしこのままではこれから大きな会員増は期待できないが、年会費の体系をアフリカやアジア地域を優遇したものにすれば、会員増も期待できるのではないか。

協賛会員や学会会員の確保も重要であり、そのためには協賛会員や学会会員の利益になるような協力関係の構築が重要である。

8. 評議会報告

2009 年-2012 年の副会長に Greenway と CheeHai を選出

9. 名誉会員

前副会長の Ken Allred 氏を名誉会員に選出

10. 2009 年-2010 年の第 8 分科会委員長選挙

立候補者：W.Nabutola (ケニヤ)、R.Sliuzas(オランダ)

第 10 分科会委員長に関しては立候補がなく、2009 年末までに立候補者がいなければ、第 10 分科会は他の分科会に吸収される予定。

11. 常設機関の所長からの報告

国際地積事務局 (OICRF) 局長 Paul van der Molen の報告

国際測量歴史研究所 (IIHMS) 会長 Jan de Graeve の報告

12. FIG 財団会長報告

FIG 財団会長 John Hohol による 2008-2009 の活動報告

13. 特別調査委員会報告

現在設置されている 2 つの特別委員会の報告

14. 新特別調査委員会 (空間情報社会) の設置

Daniel Stuedler が委員長

15. 新特別調査委員会（2009-2014 アフリカ問題）

Diane Dumashie（第8分科会委員長）が委員長

16. 新人測量士ネットワークの設置

17. 国際連合や世界銀行との協力

18. 国際専門機関との連携

19. FIG 内部規定の改定

立候補に関して公約を明確にするということと、一つの協会が複数の分科会に大きな影響をもたないようにするための規定の改定

20. 2008年の決算および監査報告、2009年、2010年、2011年予算

21. 2010年の年会費

2008年の総会で2010年から会費4.18ユーロ/会員を4.30ユーロ/会員に値上げするよう決まったが、最近の経済状況を考慮して値上げ時期を2011年から延ばす。

22. 2009年-2010年の第8分科会委員長選挙

W.Nabutola（ケニヤ）に決定

23. 分科会報告

5月5日の午前には、開会式(opening ceremony)が行われている

イスラエル測量局長：Dr.Haim Srebro と組織委員長：Mr.Joseph Kraus、FIG 会長：Prof.Stig Enemark の歓迎挨拶に続き、イスラエル宇宙庁議長：Prof.Isaac Ben Israel による基調演説が行われた。基調演説ではイスラエルの宇宙開発について紹介している。演説に使われた PP ファイルが示されているが、それによるとイスラエルがこれまで衛星（主に軍事関連）を10個も打ち上げて現在そのうち8個が現在も軌道上にあるとのことである。独自で衛星の打ち上げができる国として米、露、英、仏、印度、中国、日本、イスラエルが挙げられているのが興味深い。

技術講演会は5日、6日、7日の3日間行われている。各分科会毎に分かれて、以下に示すようなスケジュールで行われたようである。

末尾に書かれた C1,C2,C3・・・がそれぞれ分科会を示している。

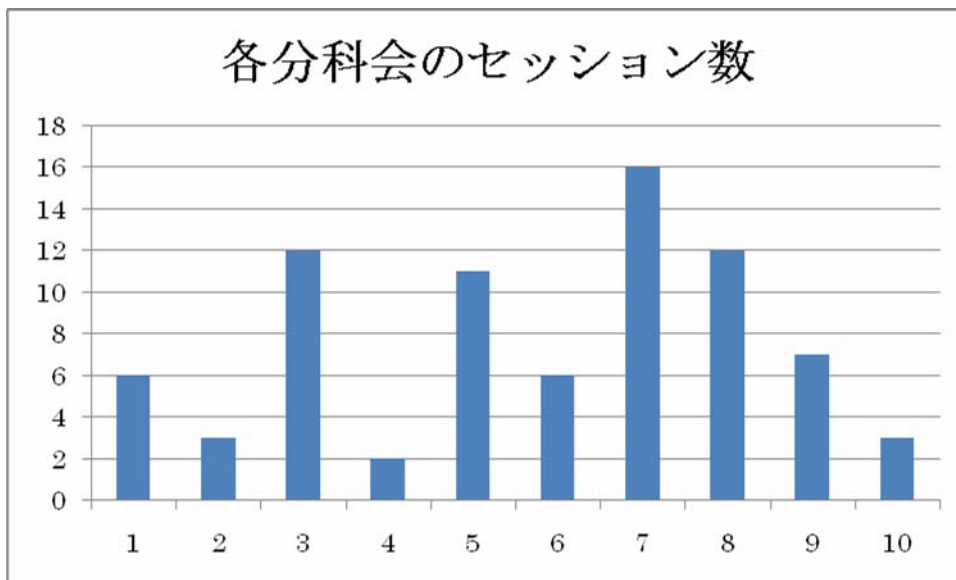
技術講演会

5月5日	5月6日	5月7日
	Coffee Break	Coffee Break
	TS3A:C7 TS3B:C7,3 TS3C:C5 TS3D:C8,9 TS3E:C1 TS3F:C6,3 TS3G:C7,8	TS6A:C7,3,1 TS6B:C3,8 TS6C:C5 TS6D:C2,1 TS6E:C9,8 TS6F:C10 TS6G:C7
lanch	lanch	lanch
TS1A:C7 TS1B:C3 TS1C:C5 TS1D:C8 TS1E:C9,1 TS1F:C6,5 TS1G	TS4A:C7,1 TS4B:C3 TS4C:C5 TS4D:C8 TS4E:C9 TS4F:C4,8 TS4G:C1,7	TS7A:C7,3 TS7B:C3,5,6 TS7C:C6 TS7D:C2 TS7E:C9 TS7F:C10 TS7G:C7
Coffee Break	Coffee Break	Coffee Break
TS2A:C7 TS2B:C3,7 TS2C:C5 TS2D:C8 TS2E:C9 TS2F:C6,5 TS2G	TS5A:C7 TS5B:C3 TS5C:C5 TS5D:C8 TS5E:C9 TS5F:C4,8 TS5G:C7	TS8A:C7 TS8B:C3,8 TS8C:C5 TS8D:C2 TS8E:C6,5 TS8F:C7,8 TS8G:C3 TS8H:C10

記号は（セッション名：分科会）を示す。

これから分かるように技術講演会では、第7分科会（地籍）、第3分科会（GIS）、第8分科会（都市計画）、第5分科会（測地）分野の発表が多く行われている。

約60のセッションでおよそ250篇の論文が発表されている。各分科会毎のセッション数は次図のとおりである。



GNSS 関連の抽象トクトをざっと見てみると、TS 1C、TS 2C でイスラエルとクロアチア、セルビアでの GNSS ネットワーク構築の紹介がある。 いずれも日本のレベルからみればまだまだ (50km より粗い間隔のネットワークでイスラエルで 11 点、クロアチアで 30 点、セルビア 32 点の電子基準点) という感じはするが、ドイツや北欧で始まった GNSS ネットワークが世界的に広がっていることを示している。

その他「測定の歴史」についてのワークショップもあり、英国がローマ帝国下にあったときに作られたローマ街道が長い直線で構成されているのを、測定の立場から技術的に説明するは発表があり、当時の測量器具やその使い方等歴史的な測量学研究の分野が英国で未だ存在しているのが興味深い。

最終日の 5 月 8 日 (金) には

会員協会会長の懇談会(Presidents' Meeting)と総会 (第二部) が開かれている。

総会 (第二部) の議事次第は次のようであった。

25. 点呼

Matt Higgins 副会長による点呼

26. 会員事項

27. FIG 法人会員との協力

28. 2013 年開催地の決定

29. 第 7 回 FIG 地域会議 (2009 年 10 月 19 日-22 日、ベトナムのハノイ) について

30. 第 33 回 FIG 総会 (2010 年 4 月 11 日-16 日、オーストラリアシドニー) について

31. 謝辞および閉会

この中で2013年のFIG総会開催地としてニジェールのアブジャ(Abuja)が決定されている。最後に5月6日に行われた歓迎晩餐会について見てみよう。

エイラートは、旧約聖書に書かれてあるシバの女王がソロモン王訪問の際、南アラビアからエルサレムに上がる途上の宿営地のひとつだったとも考えられている場所である。またエイラートの近郊の砂漠の中にはティムナ銅鉱山跡があり、ここはソロモンの時代には同鉱山の銅をシバの女王との交易に使ったという。この鉱山跡で晩餐会が開かれたようである。5月のエイラートの気温は最低20°、最高35°と日本の真夏並みである。しかし湿度は低いから日が暮れて開催された晩餐会は、ソロモンの栄華を偲ぶ雰囲気と冷えたビール(ワイン?)で盛り上がったことであろう。派遣中止になったのが残念ではある。



晩餐会の様子

